

令和 6 年度

事業報告書

令和 6 年 4 月 1 日から

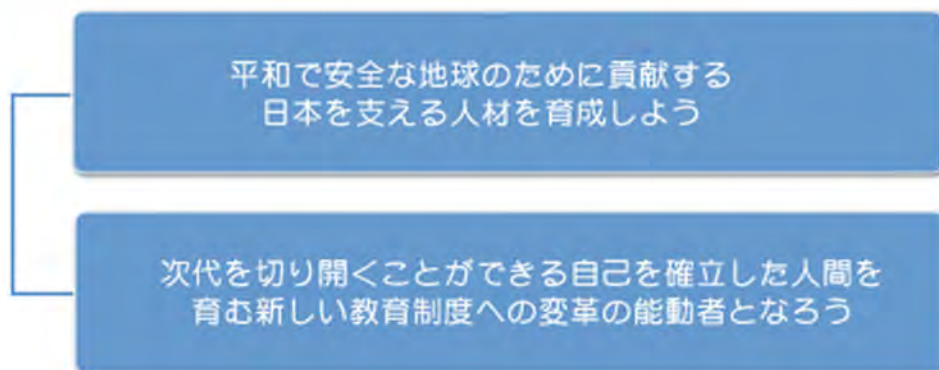
令和 7 年 3 月 31 日まで

学校法人 八洲学園

1. 法人の概要

(1) 学園のミッション

八洲学園では2つのミッション ステートメントを掲げております。



(2) 学校法人の沿革

- 1948 年 奈良県においてヤシマ裁縫学院として奈良県知事の認可により創立。
- 1951 年 私立学校法施行により、学校法人八洲学園を設立。ヤシマ文化学園並びに天理経理学校を併設する。
- 1952 年 大阪市東区（現中央区）において大阪経理専修学校を設立。
- 1954 年 大阪経理専修学校を玉造経理専門学校と改称。
- 1966 年 玉造経理専門学校の発展に伴い通学の便をはかり、阪和線堺市鳳地区に鳳経理専門学校を設立。
- 1969 年 大阪市天王寺区に玉造タイピスト学校を設立。
- 1976 年 玉造経理専門学校、鳳経理専門学校、天理経理専門学校、ヤシマ文化学園が専修学校認可を受ける。
- 1977 年 鳳経理専門学校高等課程が技能連携指定校（文部大臣認可）とし卒業生に高校卒業資格が与えられる。
- 1978 年 鳳経理専門学校専門課程は産業能率短期大学との提携により通信制を併学し、短大卒業資格を得る。
- 1979 年 鳳経理専門学校高等課程を分離し、鳳経理高等専修学校の設立認可をうける。
- 1985 年 鳳経理高等専修学校の卒業生に、文部大臣より大学入学資格が与えられる。
- 1986 年 玉造経理専門学校新校舎完成。鳳経理専門学校とともに校名を、ヤシマ情報経理専門学校と改称。
- 1992 年 ヤシマ情報経理専門学校鳳校を廃校し、八洲学園高等学校の設立認可をうける。
- 1994 年 ヤシマ情報経理専門学校に高等課程を設置
- 1995 年 ヤシマ総合ビジネス専門学校(旧玉造タイピスト学校)をパソコンワープロカレッジ専門学校と改称。
- 1997 年 八洲学園高等学校広域の認可を受け、東京本部（新宿区）を設置。
- 1998 年 鳳商業高等専修学校を八洲学園高等専修学校と改称。
- 1998 年 八洲学園高等学校梅田、渋谷、池袋会場を開設。
- 1999 年 八洲学園高等学校上野、横浜、三ノ宮、京都、奈良会場開設。
- 2000 年 八洲学園国際高等学校（沖縄）を設置。
- 2000 年 八洲学園高等学校東京本部2号館完成。
- 2001 年 パソコンワープロカレッジ専門学校内に学園本部を設置。
- 2002 年 パソコンワープロカレッジ専門学校とヤシマ情報経理専門学校統合、西日本柔道整復専門学校設置。
- 2004 年 八洲学園大学開学。
- 2006 年 八洲学園国際高等学校を八洲学園大学国際高等学校に改称。
- 2017 年 ESA 音楽学院専門学校を設置。
- 2017 年 福岡県那珂川町立福岡女子商業高等学校の移管を受け、福岡女子商業高等学校として設置。

(3) 設置する学校（令和7年3月31日現在）

設置学校名	学（校）長名	学校所在地	学校設置認可年月日	男女校種別
八洲学園大学	水戸部 優子	神奈川県横浜市西区桜木町 7-42	平成 15 年 11 月 27 日	男女
八洲学園高等学校	林 周剛	大阪府堺市西区鳳中町 7-225-3	平成 04 年 03 月 31 日	男女
八洲学園大学国際高等学校	鈴木 啓之	沖縄県国頭郡本部町備瀬 1249	平成 12 年 03 月 31 日	男女
八洲学園高等専修学校	安達 俊昭	大阪府堺市西区鳳中町 4-132	昭和 54 年 04 月 01 日	男女
ESA 音楽学院専門学校	臼田 徹	大阪府大阪市天王寺区玉造元町 2-6	平成 29 年 01 月 13 日	男女
福岡女子商業高等学校	柴山 翔太	福岡県那珂川市片縄北 1-4-1	平成 29 年 03 月 09 日	女

(4) 学部・学科・学生等の状況（令和6年5月1日現在）

※大学は正科生のみで科目等履修生は含まない。

学校名	学部・学科等名	入学定員 (人)	入学者数 (人)	収容定員 (人)	在籍者数 (人)	収容率 (%)
八洲学園大学	生涯学習学部 生涯学習学科	入学定員 800 編入学定員 400	※ 87	4000	2521	63.0
八洲学園高等学校	通信制課程 (広域) 普通科	—	605	3000	1970	65.7
八洲学園大学国際高等学校	通信制課程 (広域) 普通科	—	346	5000	1288	25.8
八洲学園高等専修学校	経理高等課程 商業科	40	22	120	70	58.3
ESA 音楽学院専門学校	文化教養課程 吹奏楽学科	35	16	70	39	55.7
	吹奏楽実務学科	10	1	10	1	10.0
福岡女子商業高等学校	全日制課程 商業科	240	204	720	540	79.2

(5) 役員の概要 (令和7年3月31日現在)

定員数 理事5～7名 実数5名 ・ 監事2～3名 実数2名 4年任期

役員名	職名 担当職名	氏名	常勤 非常勤	就任年月日 (重任年月日)	選任区分	主な現職等
理事	理事長	和田 公人	常勤	平成9年5月29日 (令和3年6月14日)	2号	理事長 (学)令徳学園理事長
理事		林 周剛	常勤	平成27年4月1日	1号	校長
理事	事業理事	小森 嘉之	非常勤	平成14年9月30日 (令和3年6月14日)	2号	会社役員
理事		吉原 和仁	非常勤	平成15年5月29日 (令和3年6月14日)	2号	元会社役員
理事		和田 みゆき	非常勤	平成21年6月14日 (令和3年6月14日)	3号	会社役員 (学)令徳学園理事
監事		加藤 卓	非常勤	平成25年6月14日 (令和3年6月14日)		税理士
監事		岡 正俊	非常勤	平成28年4月1日 (令和3年6月14日)		弁護士

(6) 評議員の概要 (令和7年3月31日現在)

定員数 11～15名 実数11名 4年任期

氏名	主な現職等	選任区分	備考
水戸部 優子	八洲学園大学学長	1号	
林 周剛	八洲学園高等学校校長	1号	兼理事
柴山 翔太	福岡女子商業高等学校校長	1号	
鈴木 啓之	八洲学園大学国際高等学校校長	2号	
石渡 知美	八洲学園職員	3号	
小森 嘉之	会社役員	4号	兼理事
吉原 和仁	元会社役員	4号	兼理事
和田 みゆき	会社役員 ・ (学)令徳学園理事	4号	兼理事
和田 公人	理事長 ・ (学)令徳学園理事長	5号	兼理事
古川 直季	国会議員	5号	
松本 真尚	会社役員	5号	

(7) 教職員の概要（令和6年5月1日現在）

		合計	八洲学園大学	八洲学園 高等学校	八洲学園大学 国際高等学校	八洲学園高等 専修学校	ESA 音楽学院 専門学校	福岡女子商業 高等学校
教 員	本 務	126	17	55	11	5	4	36
	非 常 勤	206	43	125	11	6	22	8
職 員	本 務	23	5	13	2	0	3	2
	兼 務	31	6	10	16	2	2	4

2. 事業の概要

(1) 事業の概要

当学校法人を取り巻く環境は、少子化の進行や経済状況の変化等により、厳しい状況にある。

このような中、各学校は以下の取り組みを行っている。

【八洲学園大学】

- ・「令和6年度大学機関別認証評価」を受審し、「適合」判定を受けた（改善報告書の提出が必要な指摘事項は無し）。
- ・大学サイトの「八洲学園大学とは」に「内部質保証」や「IR 情報」ページを新設し、「情報公開」ページを整理した。
- ・「八洲学園大学 第三期中長期計画」（令和5～14年度）の2年目として、内部質保証推進部会を中心に計画の遂行を推進した。
- ・自己点検活動の結果、在籍者数に除籍対象者が多数含まれていることが分かり、長期休眠学生の除籍を実施した。
また、SOBA マナベルの改修（学期開始日に管理料を自動請求するシステムの実装、異動申請フォームで過去学期を選択肢から削除する改修）を行った。
- ・アセスメント・ポリシーに基づく意識調査（アンケート）を開始した。
- ・入学検討者向けの説明会等を入学説明会（オンデマンド）、SOBA マナベルによる入学説明会・授業体験（オンライン）、個別入学相談会（オンライン）、キャンパス見学・来校相談（対面）に整理して分かりやすくし、入学検討者のニーズに応じて選択できるようにすることで入学促進をはかった。
- ・アカデミック・スキル関連科目と文学系科目を担当できる専任教員2名の就任により、初年次教育や人間力創造系の科目の充実をはかった。
- ・図書館情報学の専任教員1名を公募により採用した。また、博物館学及び社会教育学の非常勤講師各1名を公募により採用した。
- ・令和5年度に続き「障害学生支援規程」に基づく合理的配慮を実施し、令和6年度は計12名の申請があり、希望に応じた支援を行った。

【八洲学園高等学校】

- ・通信制高等学校として、通学型のサポートクラス、通信型の通信クラス、技能連携校、科目履修生、中等部の生徒への教育活動
- ・教育講演会、体験活動など、教育関係者との情報交換や地域の方との交流の場を設け、社会貢献活動

【八洲学園大学国際高等学校】

- ・「高等学校教育を受けられなかった青少年に就学の機会を与えること」を主たる目的とし、全国各地幅広い地域・年齢の生徒を受け入れ。
- ・八洲学園大学との高大連携及びESA 音楽学院専門学校との高・専連携事業を実施。
- ・地域の方々に本校教育活動へのご理解・ご協力を頂く中で、地域に根差した学校を目指し交流を深める。

【八洲学園高等専修学校】

発達障害を中心とする実践教育を更にすすめるとともに
卒業後の進路において途切れない支援の在り方を進路先と連携していく。

【ESA 音楽学院専門学校】

吹奏楽を職業にと考える人達の専門学校として、生徒のリペア技術の習得向上、演奏技術の習得向上を目指した。

- ・全体 卒業生懇親会の実施、カリキュラムの見直し
- ・教務 退学者の減少を目指す、リペア技術の習得（管楽器リペアコース）、演奏技術の習得向上（吹奏楽コース）
- ・総務 定員充足率の向上、備品管理の徹底

【福岡女子商業高等学校】

本校は町立から私立に移管した全国的にも珍しい高校として、地域との繋がりを保ちながらも固定観念に捉われずに新たな学校教育の姿を追求し、地域の希望となる学校作りを展開する。育成したい生徒像はあらゆる場面で物事を自分ごととして捉えながら必要な場面で「一歩踏み出す勇氣」を備えた人物である。その実現のために積極的に社会との接続を図り、体験的な学習を積み重ね、時代に即した商業教育の再定義を目指す。

（２）主な事業の目的・計画及び進捗状況

当該年度に実施した事業は以下の通りである。

【八洲学園大学】

・主な事業の目的・計画及び進捗状況

事項	概要	進捗状況
教育課程の体系的な編成	・生涯学習社会の実現のため生涯を通して学び続けて社会の変化がさらに激しくなる時代を生き抜く意欲をもった人材を育成している。 ・知識基盤社会をたくましく、しなやかに生き抜くことのできる生涯学習者・生涯学習支援者を育成するカリキュラムを編成している。	・令和５年度に教務委員会でディプロマ・ポリシーと科目の関連性に関するアンケートを実施。 ・令和６年４月１日付でアカデミック・スキル関連科目の専任教員２名を採用。 ・令和６年１０月１日付で経済学科目の非常勤講師１名を採用。

	・ディプロマ・ポリシーに基づいた評価指標を明確にして、科目ごとの成績評価への厳正な適用を図っている。 ・カリキュラム・ポリシーに基づいた体系的な教育課程の編成を目指して、科目の開設と見直しを進めている。 ・実践的なプレゼンテーション能力、ディスカッション能力を培う演習科目など、課題発見・解決力や豊かな人間性の醸成に資する科目群を開設している。 ・学生や卒業生の視点を育成に反映させるためのアンケートを実施して、科目の新設に役立てている。 ・国家資格取得などの学びを通じて地域の活性化に貢献する人材を育成している。	・令和 6 年 3 月からアドミッション・ポリシーに基づく卒業時意識調査、令和 7 年度から入学時意識調査、在学中意識調査を開始。 ・令和 7 年度から「レポートの書き方入門Ⅰ・Ⅱ」を 2 単位にして内容充実を図ることを決定。 ・文学関連科目の整理・体系化を行い、令和 7 年度からの「日本文学史（近代）」「日本文学史（古典）」「文学の批評と理論」の新設と「日本文学（理論）」廃止を決定。 ・令和 7 年 4 月 1 日付で図書館情報学の専任教員 1 名の採用を決定。 ・令和 7 年 4 月 1 日付で博物館学、社会教育学の非常勤講師各 1 名の採用を決定。
教員の能力開発と教授方法の工夫・開発	・e ラーニングシステムの特徴を生かしたアクティブラーニングを具現化する教育方法などの教授法を開発して拡充している。 ・e ラーニングシステムの機能が多様なインターネット環境に応じて最適化されている。 ・FD (Faculty Development) 研修を実施して意見交換を行ない、e ラーニングシステムを教育指導に活かすための能力の開発を図っている。 ・教員同士の交流の機会を作って、教育・研究の経験と問題意識を共有している。 ・グローバル化の進展により多様となったインターネット環境に対応できる学びのスタイルを提供している。 ・国内のどこからでも教員が配信し、学生が受講できる e ラーニングシステムを整備している。	・令和 6 年 3 月 9 日にテキスト履修科目に関する SD・FD 研修会をオンライン開催。 ・令和 6 年度から来校受講の制限を撤廃しコロナ禍以前の体制を復活。 ・令和 6 年度春期・秋期科目評価アンケートを実施。 ・令和 7 年 3 月 6 日に SD・FD 研修会「合理的配慮の義務化における精神障害・発達障害の学生への対応」をオンライン開催。 ・令和 7 年 3 月 31 日に「望ましい教員像・目指す職員像に関する SD 研修会」を開催。 ・令和 6 年度 FD 公開授業（授業参観）を実施。
研究活動支援	・外部資金の公募情報を収集して提供し、応募を促進している。 ・外部資金の応募にあたって申請書類の作成を支援する体制を整備している。 ・図書館や研究室など教育・研究を行なうための設備の充実を推進している。 ・学術情報リポジトリを構築し、研究成果の活用を促進している。 ・適切な研究時間の確保を図るため、教育・研究以外の教員業務の効率化をさらに推進している。	・令和 4 年度より外部研究費の公募情報を事務局より教員にメールで案内。 ・令和 6 年度個人研究費は総額 3,609,200 円（平均 225,575 円）、個人研究旅費は総額 1,205,000 円（平均 75,312 円）で、規程に定める上限内で申請額通りに支給。 ・令和 6 年度は 4 名の教員が科研費を受けて研究中。 ・令和 7 年度科研費に専任 2 名、非常勤 1 名が応募（不採択）。

		・研究インテグリティの確保のための体制整備として委員会規程を変更、細則とガイドラインを制定。 ・令和 7 年度から個人研究費・個人研究旅費の申請用紙に中長期計画との関連を追加、「個人研究費及び研究旅費に関する手引き_第 2 版」を配布。
学生の受け入れ	・アドミッション・ポリシーに基づいて、多様な学生の受け入れを推進している。 ・特別な配慮を必要として入学を希望する人に対して入学支援相談の体制を整備している。 ・e ラーニングシステムの機能を生かして、世界中どこからでも学べる環境を整備している。 ・入学検討者向けの模擬授業、オープンキャンパス、各種 SNS (Social Networking Service) を活用した広報など多様な学生を受け入れるための取組を実施している。	・「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」を踏まえ、令和 6 年度から入学志願書の性別欄に説明を追記。 ・株式会社小学館集英社プロダクションと、学芸員と社教主資格取得に関する入学金免除の協定を締結。 ・令和 6 年 7 月 31 日に横浜修悠館高等学校、9 月 10 日に N 高等学校さくらタウンキャンパス、12 月 10 日に S 高等学校ところざわサクラタウンキャンパスで説明会を実施。 ・5 年未満の再入学は全て入学金（登録料）免除とする再入学審査基準に変更。 ・全国の通信制高校等 500 校に資料送付。 ・資料請求者に入学説明会パンフレットを追加封入。 ・「社会教育士」のチラシを新たに作成し教育委員会等に送付。 ・令和 8 年度からのシニア割引適用年齢引き上げを念頭にシニア割引希望の資料請求者に DM を送付。 ・令和 6 年度は 12 名に修学上の配慮申請に基づく合理的配慮を実施。
学修支援体制の整備	・学生の一人ひとりが自分の社会生活と両立して学び続けていけるように学修支援体制を整備している。 ・アカデミック・スキル関連科目の整備を通じて学修の促進を図っている。 ・自然災害などの非常事態を想定して、学修の継続を図るための学修支援体制の整備を検討している ・SD (Staff Development) 研修・FD 研修などの実施を通じて、教職員が教育の理念や学内外の問題・課題を共有し、一体となって学修支援に取り組んでいる。 ・学生同士の交流を促し、豊かな人間性の醸成に資する仕組みを整備している。	・課外活動として、令和 6 年 2 月 29 日に小関先生引率の千葉刑務所参観、3 月 17 日に小関先生のオンライン交流会、7 月 1 日に小関先生引率の国立武蔵野学院参観、9 月 7 日に小関先生のオンライン交流会、9 月 9 日に小関先生引率の松本少年刑務所施設参観、9 月 21 に野口先生の交流会を実施。 ・令和 6 年度からシラバス項目を細分化。 ・令和 6 年 4 月 4 日に「新採用の方を迎える SD 研修会」を開催。 ・「令和 5 年度学生支援センターアンケート結果」をまとめ、SOBA マナベルの改修等を実施。（下記）

	・e ラーニングシステムの機能を生かして、障害学生支援を実施している。 ・中途退学などの防止につながる取組を行っている。 ・学生のニーズに沿った多様な方法により授業を開講している。	・「学生支援センター説明・交流会」で事前質問を受付。 ・学生支援センターページに「キーワード検索機能」を追加。 ・質問ページに学生支援センターページのリンク等を設定。 ・質問やメッセージの「一覧を表示」の文言を修正。 ・「新入生説明会」の名称を「入学者説明会」に変更し、90 分間だった動画を 5 分割して配信。 ・令和 6 年 7 月に SOBA マナベルに匿名の意見・要望フォームを実装。 ・国の教育ローン（日本政策金融公庫）の案内を学生支援センターページに追加。 ・『レポートの書き方ハンドブック』を令和 7 年 1 月 31 日付で改定。
キャリア形成と就職支援	・社会の変化に応じて学生のキャリア形成や就職・転職活動を支援する体制の充実を図っている。 ・学生のキャリア形成や就職・転職活動に役立つような科目群を整備している。 ・卒業生を対象とした勉強会や交流会の開催など、卒業や資格取得後をフォローする仕組みを整備している。	・令和 6 年度就活セミナー（キャリアコーディネート室説明会、就職活動の進め方（新卒）、就職活動の進め方（司書）、就活対策（司書・50 歳～）、就活対策（司書・公務員試験）、履歴書・職務経歴書の作成、面接対策、自己分析、メンタルヘルス）を 7 月にオンデマンド公開。 ・インターンシップの単位認定または科目開講を検討するため学生アンケートを実施。 ・キャリア教育科目の担当教員 1 名の休職に伴い科目数が減少している中、今後のキャリア教育科目について整理・体系化を検討中。 ・令和 7 年 3 月 29 日にキャリアコーディネート室説明会をオンライン開催。
運営体制の整備	・大学を取り巻く環境変化に応じて組織を柔軟に改編しながら、学長をはじめとする委員会、教授会等の役割と責任を明確にし、ガバナンスの強化を推進している。 ・教職員の提案などを各委員会、教授会等がくみ上げ、教職員の意思疎通と連携を適切に行い運営をしている。 ・中長期的な管理運営体制の視点に基づき有用な人材を計画的に確保するとともに、SD をはじめとする研修等により管理運営にかかわる教職員の人材育成をしている。	・令和 6 年 3 月に「学長ミーティング規程」を施行。 ・令和 3 年度より SD として専任職員の勤務時間内の研修参加を推奨、令和 6 年度は全 5 名が計 9 回受講。 ・図書館学の専任教員、博物館学の非常勤講師、社会教育学の非常勤講師を公募し、各 1 名の採用を決定。 ・令和 7 年 3 月 31 日に「望ましい教員像・目指す職員像に関する SD 研修会」を開催。
内部質保証の推進	・内部質保証の評価の結果を大学運営の向上のために反映し、PDCA サイクルを機能させている。	・令和 5 年 3 月に大学サイト「八洲学園大学とは」をリニューアルし「IR 情報」、「内部質保証」ページを新設。

	・IR (Institutional Research) によるエビデンスに基づく自己点検・評価を定期的に行っている。 ・自己点検・評価の結果を学内で共有し、情報を公開している。	・令和6年6月に「令和6年度自己点検評価書」とエビデンス集(データ編)を大学サイトに公開。 ・令和5年度第2回内部質保証推進部会を令和6年4月10日に、令和6年度第1回内部質保証推進部会を7月31日に開催。 ・総務委員会にて「令和5年度自己点検評価アンケート」を実施。 ・「令和5年度八洲学園大学IR推進部会年次活動報告書」を学長に提出。 ・令和6年度IR推進部会を6月5日、8月29日、1月30日、3月10日に開催。 ・令和6年度第2～3学期に長期休眠学生の除籍を実施(正科生1,255人、科目等履修生174人、特修生19人、計1,448人)。令和6年度第4学期以降は原則として学則通りに除籍を実施。 ・在籍学生数の厳格な管理のため学生数定期報告を開始。 ・令和6年度大学機関別認証評価を受審し、「適合」と判定。
組織倫理、人権、安全管理の推進	・研究倫理の遵守を推進している。 ・人権に配慮した職場環境を促進している。 ・発災時の事業継続体制の構築などによる危機管理対策をしている。 ・eラーニングシステムの安定的な稼働と情報セキュリティの強化を図っている。	・令和6年度に消費期限が近い災害備蓄品の入替えを完了。 ・各教室に「急病人が出たときの緊急対応フロー」を設置。 ・令和6年6月に教員と職員の就業規程を事実婚に対応したものに変更。 ・総務委員会にて専任教員と非常勤講師の就業規程等に関する自己研修を実施。 ・令和6年9月に教職員向けの「情報セキュリティ対策ガイドライン」を教員情報ページに掲載。 ・令和6年11月に学生向けの「情報セキュリティ対策ガイドライン」をSOBA マナベル学生支援センターページに掲載。 ・令和6年度の消防訓練を9月30日、3月27日に実施。
生涯学習社会の実現	・地方自治体の生涯学習プログラムとの連携を進めている。 ・企業等と連携・協働する体制を強化し、職業人向けリカレント教育の充実を図っている。 ・生涯学習機関として社会の多様なニーズに応える公開講座を展開している。	・令和6年度春期・秋期「開放授業」を開講。 ・新規公開講座「自分史」作成入門講座、「韓国の図書館の最新事情」を開講。 ・「防災士養成講座」を8月、1月、2月に開講。 ・「こころのサポーター」ゲートキーパー養成講座」を8月、2月に開講。

		・第26回図書館総合展にミニブースを出展、スピーカーズコーナーに学生・終了生と教員が登壇。 ・令和7年度以降の防災士養成講座に関する自治体連携（神奈川県、横浜市西区等）の検討を開始。
社会貢献活動の推進	・教育・研究の成果や施設・設備を活用して広く社会や地域に貢献することを推進している。 ・学生や教職員、卒業生等が行っている教育・研究の成果を社会や地域に還元する活動、またその他のボランティア活動等についての情報交換・発信を大学として推進している。 ・eラーニングシステムの機能を活かして公開講座の充実を図っている。	・リカレント研究センターにて、令和6年度リカレント研究員（継続6名、新規採用2名の計8名）が活動。 ・令和6年10月27日の衆議院選挙投票所として附属図書館閲覧室を提供。

※「事項」及び「概要」は八洲学園大学第3期中長期計画に基づく。

【八洲学園大学】

・施設・設備の整備計画

令和6年度は、計画通り、以下を実施した。 ・キュービクル内部部品更新工事 ・連結送水管耐圧試験（3年に1度の点検） また、当初予算では予備費に計上していた電話設備更新工事も、収支の目途がたったため実施した。 その他、急な案件として以下を対応した。 ・非常放送設備短絡異常調査（令和6年3月の防災訓練時に非常放送設備不具合が発生したため） ・6階・8階・9階（一部）の空調機修繕工事、システム天井点検口移設工事（令和6年5月の空調フィルター清掃時に必要性が発覚したため） ・3階八洲学園高等学校職員室の空調吹出口増設工事 ・1階男子トイレ手洗い器補修工事 ・東側壁面付着物撤去工事 令和7年度は、管理会社から重要度が高い修繕として受変電設備更新工事を提案されているが、非常に高額のため相見積を検討する。その他は特に計画している修繕は無く、急な案件に対応するための費用のみを修繕費に計上し、その他は予備費としている。その他、将来に向け、学内ネット配線の刷新や屋上看板のフェンス塗装工事も引き続き課題である。
--

【八洲学園高等学校】

・主な事業の目的・計画及び進捗状況

事項	概要	進捗状況
サポートクラス運営の定着化 ホームサポートクラスの入学者増	3学年がすべて揃ったサポートクラスの生徒入学者数を安定的に受け入れ、運営内容の充実を図り、運営を定着化させる。 また、不登校生や支援を要する生徒さんに対する、学習サポートをさらに拡充し、ホームサポートクラスの入学者数を増やす。	令和6年度の実績は会計書類参照

八洲学園中等部（フリースクール）	中等部の登録者数を増やす。 不登校の中学生に対し新たな学び場を提供し、所属中学校への学習復帰の一助となる。	令和６年度の在籍者数 １１７名
支援を要する生徒さんへの就労支援の充実	支援を要する生徒さんへの就労支援の充実の為、校内模擬会社を設立し、生徒さんに入社から就労までの模擬体験を経験してもらう。	

【八洲学園高等学校】

・施設・設備の整備計画

事 項	事業規模等	事業費	財 源	実施時期
大阪中央校 2F～6F 改修工事 堺本校体育館エアコン設置工事、 天井修繕工事	大阪中央校 堺本校	R6 決算書に記載	R6 決算書に記載	令和６年４月～ 令和７年３月

【八洲学園大学国際高等学校】

・主な事業の目的・計画及び進捗状況

事項	概要	進捗状況
トッパスリー ト育成コース	４分野（格闘技・陸上・野球・SUP）で展開。 ①格闘技部門・・・総監督：小比類巻貴之氏（元 K-1 王者）。「ボクシング」「キックボクシング」「総合格闘技」「空手」の４分野。 ②陸上部門・・・譜久里武氏（世界マスターズ陸上金メダリスト） ③野球部門・・・令和５年度、石毛宏典氏（元プロ野球選手）を監督とし、硬式野球部を発足。令和７年度の高野連加盟を目指す。 ④SUP 部門・・・令和６年度、総監督：田口頼氏（日本代表選手、全日本選手権大会優勝）。	①格闘技部門・・・提携団体を随時拡大中 ②陸上部門・・・生徒募集中 ③野球部門・・・石毛監督と継続相談中、女子野球も視野に入れて調査中 ④SUP 部門・・・顧問が本学位置する本部町にて一日署長に任命、認知度拡大に寄与
高大連携・高専連携の推進	高校と八洲学園大学・ESA 音楽学院専門学校の連携・接続を深めることで、内部進学者をいっそう増やすと共に、入学検討者からの当校の魅力向上／他校との差別化をはかる。	八洲学園大学の公開講座周知を行い、入学検討者及び在校生への紹介を行った。 E S A 音楽学院専門学校の定期演奏会観賞を特別活動認定指定の周知活動を実施。
地域貢献・地域交流	地域の恒例行事となった小学生サッカー・バスケットボール大会を主催し、地域貢献・地域交流を通して学校の知名度と好感度を浸透させる。 要支援家庭を支える民生委員等の研修を積極的に受け入れ、地域の不登校児や学校不適応児の教育機会確保に資する。	本学のある本部町の教育委員会・商工会・観光協会の協賛を頂き、約８００名が来場して小学生のサッカー・バスケットボール大会を主催した。また、年間を通して県内の民生委員及び各教育団体・施設に研修受け入れを案内した。
広報面の新規施策強化	沖縄県本島・離島への相次ぐ大手通信制高等学校進出の状況の中、５年度７００名程に増加した沖縄県内在住生徒数を維持・増加することを目的として新規施策を積極的に実施する。	前年度比で前期約９０名、後期約２６名の入学生増に繋がった。また、新規学習提携校２校提携を進めた。

生徒サポート強化・教職員の働き方改革のための研修・業務情報化	担任・副担任が生徒１人ひとりに質の高い教育・生活指導・進路指導を実施するため、研修・勉強会や意見交換会を定期的に実施する。 また、Web 技術や学校情報システムを活用した業務の高度化・効率化を図る。	月１回の教職員研修を継続実施中。業務効率化を更に進めるため、主任間で情報交換を継続実施した。
--------------------------------	--	--

【八洲学園大学国際高等学校】

・施設・設備の整備計画

事項	概要	進捗状況
公用車購入	経年劣化が進み、故障も相次いでいるため、中古車両を購入する。	購入完了
空調機器の更新	宿舎棟１台、職員室棟１台の取替工事を行う。	取替工事完了

【八洲学園高等専修学校】

・主な事業の目的・計画及びその進捗状況

事項	概要	進捗状況
学校関係者評価	生徒職員以外の大学・就職先の人による評価	11 月実施
第 20 回全国専攻科研究集会	オンラインではなく対面集会として全国集会を予定	12/7.8 広島にて開催
他関係学会での参加・発表	特殊教育学会・特別ニーズ教育学会での参加発表	20 回全専研集会のため参加せず

【八洲学園高等専修学校】

・施設・設備の整備計画

事項	事業規模等	事業費	財 源	実施時期
補修工事	8,464,770	修繕費	自主財源	令和 6 年 3 月
パソコン取得	2,165,040	教育研究用機器部品	自主財源	令和 6 年 3 月

【ESA 音楽学院専門学校】

・主な事業の目的・計画及び進捗状況

【全体】		
事項	概要	進捗状況
卒業生懇親会の実施	卒業生の動向の確認 業界の現況確認	8 月に実施
カリキュラムの見直し	職業実践専門課程の取得	教育課程編成委員会規程作成 教育課程編成委員会の結成し委員会を実施
【教務】		
退学者の減少を目指す	入学後の学生生活状況把握 目的意識を持たせる	放課後の時間を利用し学生の状況を把握し問題解決を行った
リペア技術の習得向上 (管楽器リペアコース)	楽器店及びリペア工房への就職	(2 年生) 楽器店・リペア工房へ就職 一般製造行への就職 (1 年生) 92%の学生が 2 年生へ進級

演奏技術の習得向上 (吹奏楽コース・科目履修生)	演奏家の育成 自衛隊・消防・警察等の音楽隊への入隊	(2年生) 消防音楽隊へ就職 (1年生) 80%が進級及び消防音楽隊・一般企業音楽部・一般企業に就職
【広報】		
事項	概要	進捗状況
定員充足率の向上	ベスト進学ネット、みんなの専門学校情報、マイナビ進学サイト、スタディサプリへ広告掲載を行う。	予定通り実施
備品管理の徹底	各教室の担当を決め、備品管理を行う。	問題なく実施

【福岡女子商業高等学校】

・主な事業の目的・計画及び進捗状況

事項	概要	進捗状況
国内間留学など地域を越えた学校間交流体制の構築	様々な価値観に触れ、自らの当たり前を見直し、広い視野の獲得や越境体験による自信を身につけることを目的に九州外の学校との交流を作り出す。	他府県の高校とコンソーシアムを構築し、令和6年度は栃木・静岡・北海道の高校と約1週間の国内間留学を実施した。本校からは13名の生徒を派遣し、5名を受け入れた。
教員研修の活性化	形骸化している研修の目的をもって自らの成長が実感できる研修制度を構築する。	東明館高校と共に工藤勇一校長を招き合同教員研修を実施。その他外部人材を招聘して生徒・保護者・教職員対象のAI利活用研修を実施した。
生徒・教職員のICTリテラシー向上	DXハイスクールに応募し、情報教育に力をいれる。	DXハイスクール1期に採択され、プレゼンルームを構築。生徒が本格的な施設でプレゼンを行える環境が整備された。

【福岡女子商業高等学校】

・施設・設備の整備報告

事項	事業規模等	事業費	財源	実施時期
生徒用Chromebook更新	60台	R6決算書に記載	学生生徒等納付金収入 国庫補助・県補助	8月
プレゼンルーム構築	1式	R6決算書に記載	学生生徒等納付金収入 国庫補助	3月
体育館及びグラウンド音響設備更新	1式	R6決算書に記載	卒業生寄付金収入	3月
生徒用ロッカー更新	648台	R6決算書に記載	学生生徒等納付金収入 保護者後援会寄付金収入	7月

(3) 施設等の状況

現有施設設備の所在地等の説明

主な施設設備の状況は次の通りである。

ア) 土 地

所在地	部門	専用面積	取得価額
神奈川県横浜市西区桜木町	八洲学園大学	838.21 m ²	658,288 千円
東京都新宿区新宿	八洲学園大学	162.00 m ²	300,552 千円
大阪府堺市西区鳳中町	八洲学園高等学校	992.00 m ²	105,000 千円
大阪府堺市西区鳳中町	八洲学園高等学校	327.00 m ²	72,000 千円
大阪府堺市西区鳳中町	八洲学園高等学校	330.00 m ²	72,000 千円
大阪府堺市西区鳳中町	八洲学園高等学校	984.00 m ²	96,753 千円
大阪府大阪市中央区玉造	八洲学園高等学校	290.00 m ²	59,587 千円
沖縄県国頭郡本部町字備瀬礎摩原	八洲学園大学国際高等学校	21950.00 m ²	172,505 千円
沖縄県国頭郡本部町字備瀬礎摩原	八洲学園大学国際高等学校	1408.00 m ²	8,540 千円
沖縄県国頭郡本部町字備瀬礎摩原	八洲学園大学国際高等学校	724.00 m ²	4,380 千円
沖縄県国頭郡本部町字石川知場塚原	八洲学園大学国際高等学校	7275.00 m ²	28,366 千円
大阪府堺市西区鳳中町四丁	八洲学園高等専修学校	276.00 m ²	58,500 千円
大阪府堺市西区鳳中町四丁	八洲学園高等専修学校	836.00 m ²	50,400 千円
大阪府大阪市天王寺区玉造元町	E S A 音楽学院専門学校	261.93 m ²	47,337 千円
東京都新宿区新宿	法人本部	134.00 m ²	300,000 千円

イ) 建 物

所在地	部門	専用面積	帳簿価額
神奈川県横浜市西区桜木町	八洲学園大学	4662.19 m ²	208,343 千円
東京都新宿区新宿	八洲学園大学	1112.15 m ²	25,106 千円
大阪府堺市西区鳳中町	八洲学園高等学校	683.93 m ²	15,408 千円
大阪府堺市西区鳳中町	八洲学園高等学校	304.98 m ²	357 千円
大阪府堺市西区鳳中町	八洲学園高等学校	1156.97 m ²	54,600 千円
大阪府大阪市中央区玉造	八洲学園高等学校	1145.17 m ²	126,111 千円
沖縄県国頭郡本部町字備瀬	八洲学園大学国際高等学校	2993.62 m ²	250,861 千円
大阪府堺市西区鳳中町	八洲学園高等専修学校	1010.94 m ²	3,071 千円
大阪府大阪市天王寺区玉造元町	E S A 音楽学院専門学校	907.59 m ²	4,180 千円
福岡県那珂川市片縄北	福岡女子商業高等学校	10741.80 m ²	260,145 千円
東京都新宿区新宿	法人本部	90.90 m ²	5,623 千円

(4) その他

特に記載すべき事項はありません。

3. 財務の概要

(1) 決算の概要

①貸借対照表の状況

貸借対照表は、学園の財政状態の健全性、必要資産の保有状況について表示したものです。

資産の合計は 10,031,174 千円で、前年度に比べ 466,941 千円の増加となり、負債の合計は 285,915 千円で、前年度に比べ 6,876 千円の増加となりました。

結果、純資産の合計は 9,745,259 千円となり、前年度に比べ 460,065 千円の増加となりました。

②収支計算書の状況

ア) 資金収支計算書

資金収支計算書は、その年度の学園の諸活動に対応する全ての収入及び支出の内容を明らかにし、その年度における支払資金のてん末を明らかにしたものです。

当年度の収入は 4,063,650 千円で、前年度の繰越支払資金 5,423,875 千円を加算すると、

収入の合計は 9,487,525 千円となりました。

当年度の支出は 3,562,386 千円となり、翌年度の繰越支払資金は 5,925,139 千円となりました。

結果、翌年度の繰越支払資金は、前年度に比べ 501,264 千円の増加となりました。

イ) 活動区分資金収支計算書

活動区分資金収支計算書は、資金収支計算書に記載される資金収入及び資金支出の決算の額を、

「教育活動」「施設整備等活動」「その他の活動」の三つの活動に区分し資金の流れを表示したものです。

教育活動による資金収支差額は 544,797 千円となり、施設整備等活動による資金収支差額は△76,684 千円、

その他の活動による資金収支差額は 33,151 千円となりました。

結果、支払資金の増加額は 501,264 千円となりました。

ウ) 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、会計年度の事業活動収入及び事業活動支出を明らかにするとともに、

基本金組入額を控除した会計年度の諸活動に対応する全ての事業活動収入及び事業活動支出の

均衡の状態を明らかにしたものです。

基本金組入前の当年度収支差額は 460,065 千円となり、基本金組入額△123,109 千円を計上後の当年度収支差額は 336,956 千円となりました。また、当年度収支差額 336,956 千円に前年度の繰越収支差額 3,588,179 千円を加算した結果、翌年度繰越収支差額は 3,925,135 千円となりました。

(2) 経年比較

①貸借対照表

(単位 千円)

科 目	令和 2 年度末	令和 3 年度末	令和 4 年度末	令和 5 年度末	令和 6 年度末
固定資産	4,164,150	4,087,961	4,013,530	4,016,639	3,992,798
流動資産	4,174,066	4,666,975	5,095,452	5,547,594	6,038,376
資産の部合計	8,338,216	8,754,936	9,108,982	9,564,233	10,031,174
固定負債	0	0	0	0	0
流動負債	213,348	250,258	247,036	279,039	285,915
負債の部合計	213,348	250,258	247,036	279,039	285,915
基本金	5,539,706	5,569,248	5,608,811	5,697,015	5,820,124
繰越収支差額	2,585,162	2,935,430	3,253,135	3,588,179	3,925,135
純資産の部合計	8,124,868	8,504,678	8,861,946	9,285,194	9,745,259
負債及び純資産の部合計	8,338,216	8,754,936	9,108,982	9,564,233	10,031,174

②収支計算書

ア) 資金収支計算書

(単位 千円)

収入の部	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
学生生徒等納付金収入	1,364,199	1,492,213	1,575,359	1,741,606	1,898,852
手数料収入	27,574	28,027	29,687	33,513	30,257
寄付金収入	799	379	11,846	6,978	13,549
補助金収入	243,559	280,660	295,559	355,605	382,197
資産売却収入	0	0	0	418	0
付随事業・収益事業収入	49,469	50,396	35,079	28,522	37,084
受取利息・配当金収入	2,187	1,985	1,748	1,510	1,691
雑収入	21,636	27,272	25,785	32,512	23,148
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	108,213	128,307	119,004	148,385	133,553
その他の収入	1,426,204	1,396,551	1,445,540	1,653,070	1,795,570
資金収入調整勘定	△177,093	△199,963	△215,962	△233,482	△252,251
前年度繰越支払資金	3,672,621	4,076,975	4,544,429	4,974,955	5,423,875
収入の部合計	6,739,368	7,282,802	7,868,074	8,743,592	9,487,525
支出の部	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人件費支出	837,124	884,361	941,539	1,047,758	1,127,093
教育研究経費支出	333,639	354,158	391,823	420,928	480,378
管理経費支出	169,617	176,966	193,968	198,956	198,448
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	28,183	18,805	10,036	62,066	61,387
設備関係支出	3,380	15,581	28,492	28,187	32,236
資産運用支出	0	0	0	0	0
その他の支出	1,298,978	1,300,348	1,341,432	1,579,250	1,697,607
資金支出調整勘定	△8,528	△11,846	△14,171	△17,428	△34,763
翌年度繰越支払資金	4,076,975	4,544,429	4,974,955	5,423,875	5,925,139
支出の部合計	6,739,368	7,282,802	7,868,074	8,743,592	9,487,525

② 収支計算書

イ) 活動区分資金収支計算書

(単位 千円)

科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	1,683,568	1,846,009	1,924,423	2,165,961	2,341,206
教育活動資金支出計	1,340,379	1,415,484	1,527,330	1,667,642	1,805,918
差引	343,189	430,525	397,093	498,319	535,288
調整勘定等	33,458	1,803	△ 7,500	9,909	9,509
教育活動資金収支差額	376,647	432,328	389,593	508,228	544,797
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	661	7,723	20,131	10,792	15,657
施設整備等活動資金支出計	31,563	34,386	38,528	90,253	93,623
差引	△ 30,902	△ 26,663	△ 18,397	△ 79,461	△ 77,966
調整勘定等		△ 2,102	2,102	△ 7,939	1,282
施設整備等活動資金収支差額	△ 30,902	△ 28,765	△ 16,295	△ 87,400	△ 76,684
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）	345,745	403,563	373,298	420,828	468,113
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	1,349,143	1,359,495	1,383,898	1,589,403	1,710,956
その他の活動資金支出計	1,290,534	1,295,604	1,326,670	1,561,311	1,677,805
差引	58,609	63,891	57,228	28,092	33,151
調整勘定等	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	58,609	63,891	57,228	28,092	33,151
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）	404,354	467,454	430,526	448,920	501,264
前年度繰越支払資金	3,672,621	4,076,975	4,544,429	4,974,955	5,423,875
翌年度繰越支払資金	4,076,975	4,544,429	4,974,955	5,423,875	5,925,139

② 収支計算書

ウ) 事業活動収支計算書

(単位 千円)

教育活動収支	収入	科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
		学生生徒等納付金	1,364,199	1,492,213	1,575,359	1,741,606	1,898,852
		手数料	27,574	28,027	29,687	33,513	30,257
		寄付金	138	379	6,846	6,978	13,549
		経常費等補助金	243,559	272,936	280,427	345,231	366,540
		付随事業収入	26,462	25,182	6,319	6,121	8,861
		雑収入	21,636	27,272	25,785	32,512	23,148
		教育活動収入 計	1,683,568	1,846,009	1,924,423	2,165,961	2,341,207
	支出	人件費	837,124	884,361	941,539	1,047,758	1,127,093
		教育研究経費	412,988	438,006	482,016	529,497	600,026
		管理経費	171,802	178,693	195,273	200,104	199,595
		徴収不能額等	0	61	0	0	0
		教育活動支出 計	1,421,914	1,501,121	1,618,828	1,777,359	1,926,714
	教育活動収支差額		261,654	344,888	305,595	388,602	414,493
	教育活動外収支	収入	受取利息・配当金	2,187	1,985	1,748	1,510
その他の教育活動外収入			23,007	25,214	28,760	22,400	28,223
教育活動外収入 計			25,194	27,199	30,508	23,910	29,914
支出		借入金等利息	0	0	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出 計	0	0	0	0	0
教育活動外収支差額		25,194	27,199	30,508	23,910	29,914	
経常収支差額		286,848	372,087	336,103	412,512	444,407	
特別収支	収入	資産売却差額	0	0	0	418	0
		その他の特別収入	661	7,723	21,165	10,374	15,658
		特別収入 計	661	7,723	21,165	10,792	15,658
	支出	資産処分差額	39,202	0	0	57	0
		その他の特別支出	0	0	0	0	0
		特別支出 計	39,202	0	0	57	0
	特別収支差額		△ 38,541	7,723	21,165	10,735	15,658
基本金組入前当年度収支差額		248,307	379,810	357,268	423,247	460,065	
基本金組入額合計		△ 31,288	△ 29,693	△ 39,562	△ 88,203	△ 123,109	
当年度収支差額		217,019	350,117	317,706	335,044	336,956	
前年度繰越収支差額		2,367,549	2,585,162	2,935,429	3,253,135	3,588,179	
基本金取崩額		594	150	0	0	0	
翌年度繰越収支差額		2,585,162	2,935,429	3,253,135	3,588,179	3,925,135	

(参考)

事業活動収入 計	1,709,423	1,880,931	1,976,096	2,200,663	2,386,779
事業活動支出 計	1,461,116	1,501,121	1,618,828	1,777,416	1,926,714

(3) 主な財務比率比較

(単位 %)

比率名	算 式	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	48.9	47.2	48.2	47.8	47.5
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	24.2	23.4	24.7	24.2	25.3
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	10.1	9.5	10.0	9.1	8.4
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒納付金}}{\text{経常収入}}$	79.8	79.7	80.6	79.5	80.1
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	14.5	20.2	18.1	19.2	19.3
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}$	87.1	81.1	83.6	84.1	85.1
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	16.8	19.9	17.2	18.8	18.7
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	15.5	18.7	15.9	17.9	17.7
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{負債}+\text{純資産}}$	97.4	97.1	97.3	97.1	97.1
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	1956.5	1864.9	2062.6	1988.1	2111.9
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	2.6	2.9	2.8	3.0	2.9
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0

(4) その他

①有価証券の状況

区分	銘柄	数量	帳簿価額	時価	表示科目
株式	(株)神戸製鋼所	500	277,043 円	865,000 円	有価証券
株式	南海電気鉄道(株)	6,200	4,850,460 円	15,193,100 円	有価証券
計		6,700	5,127,503 円	16,058,100 円	

②寄付金の状況

寄付金の種類	寄付者	金額	摘要
特別寄付金	卒業生・保護者	12,770,000 円	福岡女子商業高等学校
一般寄付金	卒業生・保護者 他	778,871 円	八洲学園大学 福岡女子商業高等学校

③収益事業の状況

駐車場業及び不動産賃貸業を行っており、その状況は次のとおりである。

(単位 千円)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
流動資産	8,244	7,963	9,145	9,012	8,561
固定資産	179,317	174,574	183,913	178,456	172,999
資産合計	187,561	182,537	193,058	187,468	181,560
流動負債	6,532	6,494	8,594	5,859	6,405
固定負債	0	0	0	0	0
負債合計	6,532	6,494	8,594	5,859	6,405
純資産合計	181,029	176,043	184,464	181,609	175,155
負債・純資産合計	187,561	182,537	193,058	187,468	181,560
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
売上高	51,520	47,879	54,893	54,553	53,250
販売管理費	53,595	50,494	57,924	54,801	56,666
営業外損益	0	0	0	0	0
当期純損益	△2,075	△2,615	△3,031	△248	△3,416

④関連当事者等の取引の状況

ア) 関連当事者 イ参照

イ) 出資会社(学園が2分の1以上の出資をしている会社)

会社等の名称	事業内容	資本金等	出資割合	取引の内容	人事上の関係
株式会社ボードス	学習塾	10 百万円	100%	—	役員1名 取締役を兼務
株式会社SOBAエデュケーション	情報サービス	60 百万円	50%	支払額 3645 万円	役員1名 取締役を兼務
学校運営機構株式会社	経営コンサルティング	31 百万円	96.7%	受入額 252 万円 支払額 3529 万円 貸付金 13200 万円	役員1名 取締役を兼務
株式会社イノーヴィンタラクティブ	情報サービス	30 百万円	100%	受入額 120 万円 支払額 2041 万円	役員1名 取締役を兼務

以 上